T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	博物館・美術館フロアガイドの記載語句とピクトグラム使用分析――ウェブサイト掲載物を対象に
Title(English)	Usage Analysis of Texts and Pictograms on the Museum ’ s Floor Guide -- the Case of the Prefectural Museums in Japan
著者(和文)	阿児雄之
Authors(English)	Takayuki Ako
出典(和文)	第9回秋季研究集会発表要旨, , , pp. 22-23
Citation(English)	, , , pp. 22-23
発行日 / Pub. date	2016, 11

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

博物館・美術館フロアガイドの記載語句とピクトグラム使用分析
――ウェブサイト掲載物を対象に

Usage Analysis of Texts and Pictograms on the Museum's Floor Guide
-- the Case of the Prefectural Museums in Japan

阿児　雄之 *

Resume:

博物館・美術館の来館者に対するアクセシビリティへの配慮として、フロアガイドを用意することはその一例である。特にウェブサイトにてフロアガイドが提供されていれば、来館前に観覧順路の計画を立てたり、身体的障碍をもっていても観覧可能か判断したりすることが可能である。本分析では、各博物館･美術館がフロアガイドを作成する場合の適切な提示情報整理を目的に、ウェブサイトで提供されているフロアガイドに記載されている語句・ピクトグラムの使用状況を分析した。

1. はじめに：

フロアガイドは、施設利用者に対し、フロア内の設備機能や空間構成を提供する一般的なツールである。トイレやエレベーターなど建物の設備機能配置を把握する際に、誰もが利用したことがあるだろう。しかし、博物館・美術館の場合、展示内容により、その空間構成が大きく変更される場合が多く、フロアガイドの更新を頻繁におこなうことを余儀なくされてしまい、フロアガイドの更新が困難である。このように特殊な条件下において、フロアガイドにて提示する情報の選択基準は各館に委ねられる。本調査では、フロアガイド制作の参考となれるよう、各館のウェブサイトに掲載されているフロアガイドでの記載語句とピクトグラムの使用傾向を分析する。この分析を通じ、フロアガイドに求められる情報提示について、ひとつの参照データ群を作成することが目的である。

2. 調査対象と方法

2.1 調査対象

日本の都道府県立博物館・美術館を対象に調査をおこなった。各館では、配布形態のフロアガイドを用意していると想定されるが、本調査では公式ウェブサイトに掲載されているフロアガイド（地図形態のもの）を対象にした。

2.2 データの抽出と記述統制

フロア別に、記載されている語句とピクトグラムを抽出した。なお、トイレやエレベーターなど、複数表記されているものは、記載数分抽出している（例えば、トイレが 3 ヶ所記載されている場合、「トイレ」という語句またはピクトグラムを 3 つ抽出する）。

語句については、各フロアガイドの記載ママをまず転記し、データ整理の段階で、全角の英数字と約物を半角に統一にする処理をおこなった。

ピクトグラムについては、様々なバリエーションが存在するが、JIS 規格化されている「案内用図記号（JIS Z8210）[1]」に照らしあわせ、同様とみなされるものについては、JIS Z8210 の名称へ統一した。また、JIS Z8210 に該当しなかったものについては、各フロアガイドの凡例に従った名称とした [2]。

3. 記載語句とピクトグラムの使用傾向

調査の結果、得られたフロアガイドは 107 館、244 フロア分である [3]。記載されていた語句は 2,731 語、ピクトグラムは 45 種 858 個である。これら語句とピクトグラムそれぞれについて、その使用傾向を分析する。

3.1 語句の使用傾向

語句については、MeCab[4] を用いて使用頻度を調べた。フロアガイドに用いられている語句の中で重要なものは名詞であると考えられるので、今回は一般名詞に着目して、整理をおこなっている。その上位 10 件（語句と使用回数）は次の通り。

1. 展示	365 件
2. トイレ	129 件
3. ギャラリー	91 件
4. エレベーター	82 件
5. 入口	60 件
6. コーナー	59 件
7. EV	55 件
8. ミュージアムショップ	51 件
9. 企画	48 件
10. ホール	45 件

上位 10 件を見るだけで、博物館・美術館を表現していると

* あこ たかゆき（東京工業大学博物館）

いうことがわかる特徴的な語句使用ある。詳しく見ると、「展示」という語句が最も使用されている。しかし、実際の記載状況をみると「展示室」や「常設展示」という表現で使用されている場合が多い。「コーナー」や「企画」も同様の状況である。そのため、正確な頻度ということはできないが、全体の傾向を把握するには十分な精度であると考える。

3.2 ピクトグラムの使用傾向

使用頻度の高いピクトグラム 10 件は次の通りである。

1. エレベーター	154 件
2. お手洗	146 件
3. 障害のある人が使える設備	109 件
4. 女子	48 件
5. コインロッカー	47 件
6. 男子	46 件
7. 階段	46 件
8. 水飲み場	33 件
9. エスカレーター	26 件
10. 電話	15 件

「エレベーター」と「お手洗」が圧倒的に多いことがわかる。さらに、「障害のある人が使える設備」「女子」「男子」も実際はお手洗を示している場合がほとんどであるため、最も使用頻度の高いピクトグラムは「お手洗」を示すものであると判断できる。

そして、「コインロッカー」の頻度が高いことが特徴的である。博物館・美術館では、鑑賞の際の快適性・安全性を考慮しコインロッカーを設けている館が多い。このことをフロアガイドから推し量ることができるのは興味深い。

4 考察

今回は都道府県立の博物館・美術館を対象としてフロアガイドの調査を実施した。部分的な調査対象ではあったが、記載語句とピクトグラムの使用傾向には、博物館・美術館の特徴を示す結果が現れた。

語句では「展示」や「ギャラリー」など博物館・美術館の空間構成を示すものが多く使用されている。そして、ピクトグラムは「エレベーター」や「お手洗」など建物の設備機能を示すものが多く使用されている。このように一般的な建物設備機能についてはピクトグラムを利用し、館の機能を案内するには語句を利用すると、利用者に対して各館を効果的に紹介できると考えられる。

今後も引き続き、博物館・美術館のフロアガイドにおける表記を調査する計画である。あわせて、抽出・整理したデータは誰もが利用できる形態で公開する予定である [5]。

5 謝辞

本研究はJSPS科研費 26750104「文化施設のオンデマンド・フロアガイド創作―空間と作品情報のオープン化」の助成を受けたものである。

註

1. 一般社団法人　日本規格協会「JIS Z8210:2002 案内用図記号」2016 年 3 月 22 日改正
2. ピクトグラムの同一性判断は、調査者個人によるものである。
3. ウェブサイトに地図形式でのフロアガイドが存在した館数である。また、調査時期が 1 年以上にわたるため、建物改修やウェブサイト更新により現在は存在しないものも含まれている。
4. 形態素解析エンジン Mecab、http://taku910.github.io/mecab/（参照　2016-09-20）
5. 図書館、文書館フロアガイドにおける記載語句・ピクトグラムデータについては、LinkData.org(http://user.linkdata.org/user/FloorGuidedon/work) にて公開中である。